

令和4年度 福井県立金津高等学校 学校評価書

項目 [校務分掌]	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程・ 学習支援 〔教務部〕 〔授業改善・ IPT企画室〕	<p>① 主体性・自立心・探究心を育てるために、他者と協働して学びを深め、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を高める学習の充実に努める。</p> <p>② 放課後活用について生徒が目的意識を持ち、自主的・自律的に取り組むよう内容の精選を図る。</p>	<p>○ 教員は、生徒が主体的・協働的な学びを育むための授業作りに積極的に取り組むことができている。</p> <p>○ 生徒は、いずれの学年も授業の中で自分の意見を伝えたり、他者の意見をまとめ伝えたりすることができているという結果を得た。2年の評価結果は高かったが、3年は低かった。</p> <p>△ 3年保護者は目標指数を上回ったが、1、2年保護者の数値が下回ったため、全体でも目標指数を約10%下回る結果となった。</p> <p>○ 生徒が自主的・自律的に取り組むことができるようほとんどの教員が働きかけている。</p> <p>○ 教員の働きかけによる効果もあり、第1学年では目標指数を上回る生徒が放課後の時間について積極的に取り組んでいると回答している。しかし、少数ではあるが、取り組んでいないと回答している生徒がいる。</p> <p>○ 第2・3学年においては、放課後の時間を部活動や進路実現のための学習の時間として有効に活用しているという回答を多く得られた。</p>	<p>◇ 主体的・協働的な学びを育むために、教員は引き続き積極的に授業作りを続けていく。そのために、互見授業や研修会を行い、教員の授業力向上を図っていく。</p> <p>◇ 保護者が、子どもの家庭学習に対する満足度だけでなく、学校での学習に対する取組についても評価できるよう、学年通信やホームページなどを利用して情報発信する。</p>
2 生徒支援 〔生徒支援部〕	<p>① 登校指導や頭髪服装指導を通して、挨拶の励行、時間厳守、身だしなみなどの基本的生活態度の育成に努める。</p> <p>② 学校行事やクラス活動、部活動などに積極的に取り組ませ、生徒の自主的・実践的态度とリーダーの育成に努める。</p> <p>③ いじめの未然防止、早期発見・解決に対する教職員の意識の定着・高揚に努める。</p>	<p>○ 教員は朝の挨拶活動などに協力し、積極的に指導に取り組んでいる。</p> <p>○ 挨拶ができる生徒の割合は昨年に引き続き高く、部活動を中心に場に応じた挨拶ができる。</p> <p>○ 保護者からの評価も高い。</p> <p>○ 教員は個々の生徒に向かい、積極的に取り組んでいる。</p> <p>○ 多くの生徒が自主的・積極的に行事や部活動などに取り組んだ。特に1年・3年生が前年度より、積極的に取り組むことができた。</p> <p>○ 保護者の評価も高く、各学年ともに前年を上回っている。</p> <p>○ すべての教員がいじめ防止に関する高い意識を持ち取り組んでいる。</p>	<p>◇ 引き続き集会等の機会を利用して挨拶の意味や基本的生活習慣の確立の重要性を理解させるよう努める。生徒会とも協働し、挨拶の意義を考える機会を増やし、すべての生徒が校内外にかかわらず積極的に挨拶ができるよう啓発する。</p> <p>◇ 生徒が学校行事やクラス活動、部活動において、達成感や充実感、自己肯定感を味わえるよう工夫する。個々の生徒に応じた活躍の場を提供できるように学校祭や遠足等の内容を生徒と共に改善し、積極的に参加できるよう支援していく。</p>
3 進路支援 〔進路支援部〕	<p>① 大学入試対策講座・小論文対策講座・私立大学入試説明会等の開催、模試結果の分析に合わせた学力の向上を図る。</p> <p>② 学年通信や進路だよりの発行、進路研修会や保護者会等をとおして、生徒・保護者への進路情報や模試結果の提供に努める。</p>	<p>△ 昨年度は教職員・生徒・保護者全てで目標指数を達成することができたが、今年度は生徒の評価が目標指数を上回ることができなかった。2年生が下回った理由はアンケート実施時期に土曜講座や大学入試対策講座がまだほとんど開催されていなかつたことが原因と考えている。</p> <p>○ 昨年度は教職員と生徒で目標指数を達成することができなかったが、今年度は教職員・生徒・保護者全てで目標指数を達成することができた。昨年度と比べて生徒がオープンキャンパス等に参加できただけが大きかったのではないかと考えている。</p>	<p>◇ 判断基準に休業中の補習も含める</p> <p>◇ 模試への取組に対する事前、事後指導を情報機器を活用しながら充実させる。</p> <p>◇ 進路だよりや学年通信での進路情報の提供の充実を図る。</p> <p>◇ 教員に対しても進路情報の提供を図り、生徒や保護者への情報提供を促す。</p> <p>◇ 生徒を通して保護者への進路に関する情報提供を強化する。</p> <p>◇ 生徒に対してはオープンキャンパスや各種体験の情報提供、参加を促す。</p>

項目 [校務分掌]	具体的な取組	成果と課題	改善策・向上策
4 中高一貫教育 [中高一貫教育]	① 中高の連携を密にし、事業内容や取組について広報紙やホームページ等を活用し、積極的に広報する。	○ 本校教職員の評価は昨年同様に高かつたが、数値が微減した。 ○ 事業実践に関する連携中学校関係教職員の評価は、目標指数を上回った。しかし、高1、高2の連携生徒が育っていく様子がわかりにくいとの指摘もあった。 ○ 連携中学校連携クラス3年生は、実践している事業に対し、意欲的に取り組むことができている。 ○ 連携中学校連携クラス3年生の保護者の評価結果は、昨年度と同様であった。	◇ 高校の中高一貫クラスについて、一般クラスとの違いがわかりにくいという意見への対応として、中高一貫クラスの独自性を出すため、教育課程を一部変更したり、総合的な探究の時間の内容を一般クラスと分けて実施予定である。 ◇ 現在実施している中3生対象の各事業内容に関して、中高一貫独自の事業として、さらに継続していくとともに、中高一貫通信や学校ホームページを利用し、積極的に広報していく。
	② 中学校での連携授業において、チームティーチングを実施し、丁寧でわかりやすい指導に努める。	○ 授業に関わっているすべての教職員が積極的に取り組んでいる。 ○ 連携授業に関して、連携中学校関係教職員の評価結果は、目標指数を上回った。 ○ 中学3年連携クラスの連携授業の理解度は、目標指数に達している。 ○ 中学3年連携クラス保護者の連携授業に対する満足度は、目標指数に達している。	◇ 授業担当者は、チームティーチングにより、引き続き連携中学校3年生に丁寧でわかりやすい授業を行っていく。中3生で数学の進度に不安を感じている生徒に対し、理解度を確認しながら、都度必要な支援を続け、中学校教員と連携をとりながら定着を図る。
5 健康管理 [保健部]	① 家庭と連携し、心身の健康に関する知識を深めるとともに、感染症対策としての毎朝の検温・体調チェックをとおして、自己の健康管理能力を育てる。	△ 教職員・保護者の指標は昨年度以上の結果であり、目標指標を上回る結果であったが、生徒については、昨年を若干下回る結果となり、目標指標を超えることができなかった。	◇ 揭示板や保健だよりなどを活用し、生徒に対して、これまで以上に、健康に関する知識を伝していく。また、保健委員会の主体的な活動を促すこと、日々の健康管理の必要性を生徒自らが自覚できるように努めていく。
	② 美化意識の向上と主体的な清掃活動の実践力が育つ支援に努める。	○ 校内での教員および生徒の清掃に対する取組は目標指標を上回った。家庭での学習環境の整理に対する保護者の評価も目標指標を上回った。	◇ 教室・廊下の整理整頓や清掃週間の指導を通して美化意識を育てるとともに、整理整頓の重要性を認識させ、家庭での学習環境の改善を目指す。
	③ 気がかりな生徒に対する理解と適切な対応に努める。	○ すべての教員が、気がかりな生徒に対する理解と支援を行っている。生徒も不安なことを相談できる状況である。	◇ 引き続き、保護者、外部機関と連携を取りながら一つ一つの事例を理解し、対応していく。また、生徒が相談しやすい環境作りに努める。
6 開かれた学校づくり [図書涉外部]	① ホームページやPTAだよりを通して、本校教育の取組を積極的に広報するとともに、保護者や地域社会と連携した活動の充実に努める。	○ 昨年度高かった1年生保護者による評価が下降したが、ホームページの更新回数をさらに増やしたりPTAだよりで詳細な行事紹介をすることにより、本校の教育活動およびPTA活動に対する保護者の評価の全体値は目標値を上回った。	◇ 保護者に本校の教育活動についてさらに理解してもらえるように、PTAだよりの記事の企画・検討を行い、魅力的な紙面作りを継続する。また、ホームページの掲載内容の充実を図りながら、保護者・地域社会・中学生などへの広報活動を強化する。
7 図書指導 [図書涉外部]	① 図書および資料の整備と充実に努める。	○ 「わからない」189名を抜くと91%となり昨年同様目標値を上回っている。	◇ 学校図書館の環境整備に努めるとともに、生徒への広報活動のさらなる充実を図る。
	② 朝読書をはじめとした読書活動の充実および読書マナーの向上に努める。	○ 3年の数字が73%と上がった。1,2年の初期指導がしっかりと行き届き、それを維持できた成果が出た。	◇ 生徒に朝読書の意義を理解させるとともに、生徒の興味・関心を引くような書籍の購入と学級文庫の設置を行う。また、特に1年次の初期指導の充実に努め、自ら進んで読書活動に取り組むような習慣づけを図る。
8 授業改善 [授業改善・IPT企画室]	① 手帳とGoogleClassroomを連携活用し、ポートフォリオの蓄積とエビデンスの構築を促す。	△ 目標を達成してはいないものの、担任・副担任以外の教科担任の先生が活用の場面がないことを考えるとおおむね良好だと考える。 △ 活用している生徒は約40%と目標の半数である。特に3年生が一番低く35%である。 △ 昨年度に比べて、役に立っていると感じている保護者が増加している。一方で、「わからない」と回答している保護者が117名と、手帳を利用していることが知られていないことが課題である。	◇ タブレット端末の導入以降、教科担任はClassroomを用いて連絡をすることが多くなっており、教科担任が手帳について声かけを行う場面が減っている。そのため今後は、調査対象を「担任・副担任」に変更する。 現状、(課題や行事などの)連絡がClassroomで配信され、諸活動の振り返りもClassroomを用いてするようになっており、手帳の担っていた役割がClassroomへ移行しつつある。そのため、手帳の購入・利用の仕方にについて今後検討する。 また、本部署の取組内容も「課題探究活動の推進」「授業改善の推進」「ICT機器の利活用」へと大きく移行している。これらの現状を踏まえて次年度に「重点目標」を見直すことを検討する。
	② GoogleClassroomでの各種活動のポートフォリオの作成と蓄積を通して、自身の成長を実感させ自己肯定感の向上を促す。	△ 目標を達成してはいないものの、前年度と比べて大きく向上した。副担任の先生の閲覧コメントが少ないと考えられる。 △ 約60%の生徒が入力をしておらず、ポートフォリオの意義などが生徒に伝わっていない。	◇ 学年会などの時間を通じて、学年団の教員全員で生徒の活動を評価する。 ポートフォリオの意義や活用方法について説明をする。入力の時間を取り、自身の活動を振り返り、アウトプットする機会を確保する。

備考：「成果と課題」欄の「○」「△」は、アンケート集計結果に基づき、目標指標を達成した場合には「○」、達成しなかった場合には「△」で示している。